

## 和紙糸と銅線糸を拡販

燃糸 備後  
自販比率を5割近くへ

燃糸業の備後燃糸(広島県福山市)は、主力の和紙糸と、このほど開発した銅線糸で自販を強化している。提案型の燃糸によって、直近1年で自販の比率は3割5分から

5割近くまで拡大。銅線糸で手袋など最終製品の

提案も強め、自販比率をさらに高める。

燃糸業界は近年、アップル需要の低迷で厳しい環境にあり、同社も2013年で注文が3割以上減少した。2009年から

は受託加工からの脱却を目指し、和紙事業部を立ち上げて和紙糸を「備和」と名付け自販を強化してきた。

新型コロナウイルス禍でより環

境が厳しくなったことから、新たに抗菌作用が見込める銅線糸で拡販を図る。現在、80番手の絹糸2本と0.05mmの銅線をダブルツイスターで撚り合わせているが、綿の番手や撚りの回数、繊維長、染色などで試行錯誤を続け、幅広い提案に努める。

「銅線糸の光沢感をあえて見せるか、綿をより太番手にして柔らかさを見せるか、切り口は多い」(光成明浩社長)と言う。最近では社員の意見を取

り入れる箱を設置し、最終製品の在り方を含めて意見を募っている。

銅線糸の商標は検討中。価格は1kg当たり7200円前後を想定する。

自販の取り組みが奏功し、21年3月期売上高は前年比微減ながら増益で着地する見込み。和紙糸「備和」とともに銅線糸で織布企業やユニフォームメーカー、商社への訴求を強め、将来的に「自販の比率を8割以上に高める」目標を掲げる。



綿と銅の比率次第で光沢感の度合いが変わる